



**RUSSIAN SELF-PROPELLED GUN**  
**SU-76M**

1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ  
**ソビエト自走砲 SU-76M**

★戦闘室内部や主砲まわりも実感豊かに再現。★履帯はリアルな連結組み立て式。  
★戦闘中の緊迫感あふれる乗員の人形3体、デカール2種類付き。接着剤・塗料別売

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.348

★DETAILED STATIC DISPLAY MODEL ★ACCURATELY CAPTURES SU-76M FORM WITH OPEN-TOP FIGHTING COMPARTMENT ★AUTHENTIC GUN DEPICTION IS MOVABLE THANKS TO POLY CAPS  
★ASSEMBLY TYPE TRACKS FEATURE 1-PIECE STRAIGHT SECTIONS & JIG FOR CONSTRUCTION  
★COMES WITH 3 FIGURES FOR FIGHTING COMPARTMENT & 2 MARKING OPTIONS

※READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT ※MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX ※DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS AGE 14 AND ABOVE. THIS IS NOT A TOY ※CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED ※THIS IS A PRE-PRODUCTION EXAMPLE

Developed with support from  
Vadim Zadorozhny's Vehicle Museum



紙 保護シート 下箱 袋

※このキットは試作品です。 1/35-ITEM 35348

タミヤ模型さんから今月初旬に発売された「1/35ミリタリーミニチュアシリーズNo.348 ソビエト自走砲 SU-76M」を製作します。

## 1. キット内容

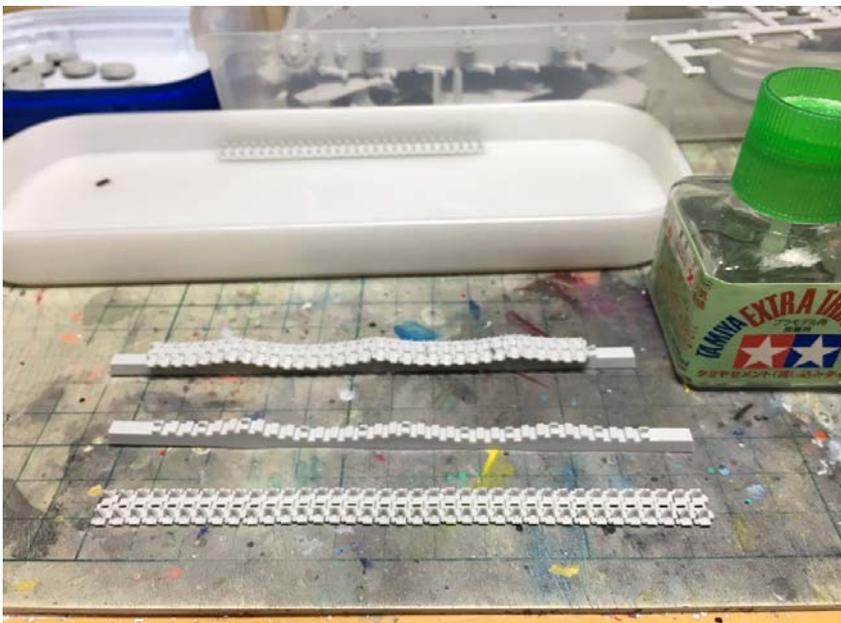


T70軽戦車がベースとなっているので車体は小振りですが、戦闘室内が丸見えとなるオープントップなので、主砲や砲弾その他の細かいパーツがセットされており、車体の割にはパーツ数は多く感じます。

また、履帯はベルト方式ではなく連結組み立て方式となっています。

その他には、クリアパーツ、デカール、ワイヤーロープ用の糸が付属しています。

## 2. 履帯の組み立て



履帯は、接地面の部分はワンピースですが、他の部分は連結組み立て式で、前部と後部に上部の弛んでいる部分の4パーツで構成されています。弛みを再現するための治具も付属しており、指定の数の履帯を連結し、流し込みタイプの接着剤で接着します。接着剤が固まる前に治具に乗せ、指で軽く押さえつけると簡単に弛んだ履帯が再現することができます。

### 3. 塗装



車体、ロードホイールはタミヤのオキサイトレッドサーフェーサーを吹き付け(ソビエトの戦車の下地塗装は何色か知りませんが…) 乾燥後にオリーブグリーンで塗装します。砲弾はシルバーを塗装後にクリアイエローを吹き付け砲弾らしくしておきます。履帯は指示どおりダークアイアンで塗装します。

### 4. 車体の組み立て



車体のオリーブグリーンが乾燥すればデカールを貼り付けます。足回りの汚しは、ロードホイール、履帯を組み付けると少し面倒なので、この時点で汚しておくとも良いと思います。車体の組み立ては、何の問題もなく、組み立て説明図どおりに進めれます。さすがタミヤさん!!

### 5. 履帯の組み付け



履帯は先にも触れましたが、写真のように4つのパーツで構成されています。それぞれのパーツを連結し接着します。



自然な弛みの履帯が簡単に再現できます。

## 6. 主砲の組み立て



主砲はポリキャップで車体と接合するようになっていいますので、車体と別々に製作することができ、製作中の破損などのトラブルを避けられます。主砲の組立ても組立て説明図どおり進めます。もちろん何の問題ありません。組み上がれば、オキサイトレッドサーフェーサー→オリブグリーンで塗装。組立て説明図の指示に従い細かい部分を塗り分けます。

## 7. 車体まわり完成



車体と主砲をスコットとはめ



ると単体まわりは元成じり。

## 8. 泥遊び



タミヤさんのウェザリングスティック、ウェザリングマスターとスミ入れ塗料を使用し汚し塗装をおこないます。私にとって戦車模型製作作業で一番楽しい作業で、いつも調子に乗って汚し過ぎてしまいます。皆さんは程々に！泥遊びが終われば、履帯の接地面や、擦れて塗料の剥げを再現するのにシルバーでドライブラシをし、エナメルのはルレッドなどで錆を描き込みます。最後にウェザリングスティックを水で溶き、筆に含ませて指で弾いて泥ハネを再現します。

## 9. フィギュアの組み立て



通常の戦車なら上半身だけのフィギュアがセットされていますが、オープンカーなので全身像のフィギュアが3体も付属しています。左から砲手、ローダー、コマンダーです。コマンダーは阿波踊りや盆踊りを踊っているわけではありません。可哀そうですが串刺しにサーフェーサーを吹き付けます。頭部はこの時点では接着しない方が扱いやすいと思います。

## 10. フィギュアのお化粧



組立て説明図どおりに塗装します。別に塗装した頭部を接着し、ローダーには砲弾を持たせます。  
塗装が終われば、ウェザリングマスターのマットとライトサンドを軽く撫ぜ付けて、少し着込んだ服の再現をしておきます。  
やっぱり右端のコマンダーは踊ってるし、顔はどこかの大統領によく似ていると思います…

## 11. 総員配置！！



狭い狭い戦闘室内なのに、何の工夫もしなくても3体のフィギュアをそれぞれの持ち場に就かせることができます。  
コマンダーも仕事をサボって踊ることなく、ええ仕事してはります。

完成写真







